

イチゴの病害虫の発生状況（3月上旬）

1 うどんこ病

発生ほ場割合は平年並でした（図1）。果実や果梗での発生を確認しています。まん延すると防除が困難になるので、発生初期から防除を徹底してください。

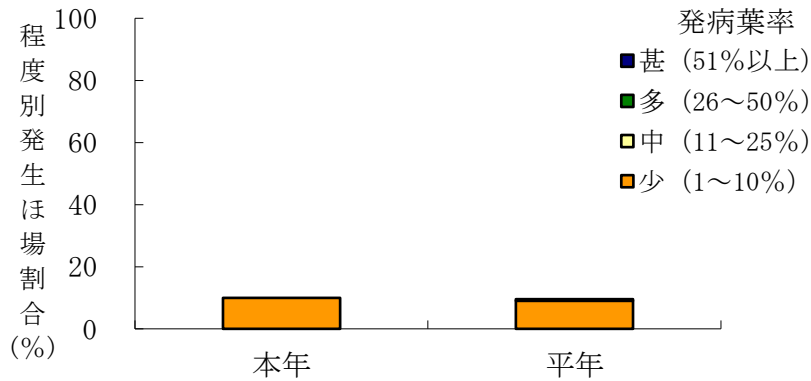


図1 うどんこ病の発生状況

2 灰色かび病

発生ほ場割合は平年並でした（図2）。本病害は湿度が高いと発病しやすくなります。り病した果実や茎葉、果梗はほ場外に持ち出して処分してください。

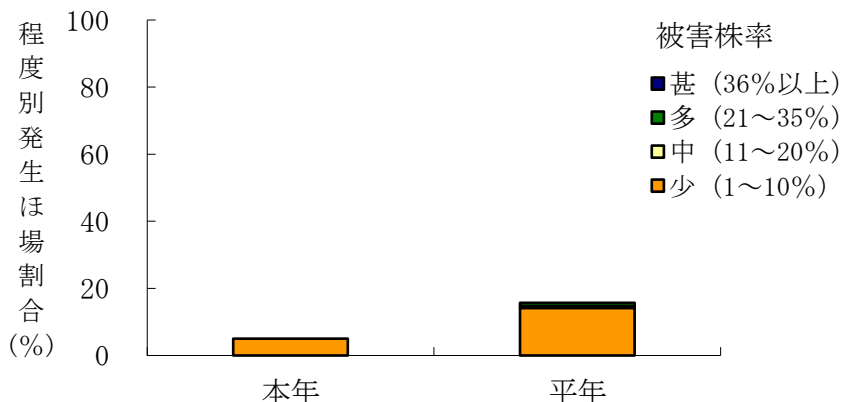


図2 灰色かび病の発生状況

3 アブラムシ類

発生ほ場割合は平年並でした（図3）。主な寄生種はモモアカアブラムシとイチゴケナガアブラムシでした。一部のほ場で果梗への寄生が確認されています。寄生密度が高くなると、すす病による果実汚れが生じるので、発生を確認したら防除を実施してください。

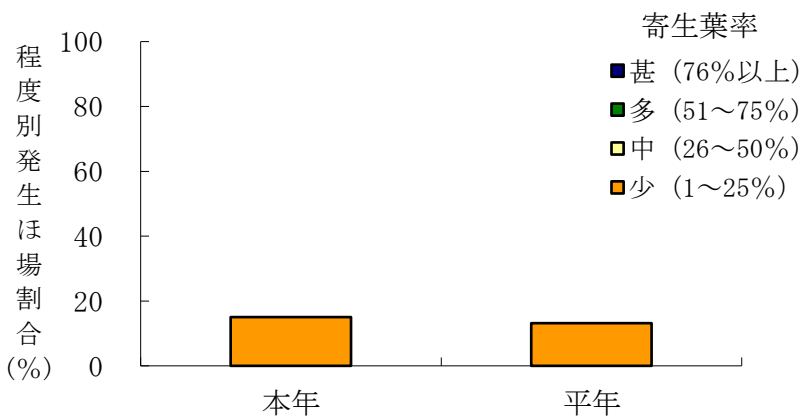


図3 アブラムシ類の発生状況

4 ハダニ類

発生ほ場割合は平年並でした（図4）。天候予報（3月10日発表）によると、向こう1か月の気温は高く、平年同様に晴れの日が多いと予想されているので、早期発見に努め、低密度時から防除を実施してください（令和3年10月12日付け防除情報参照）。

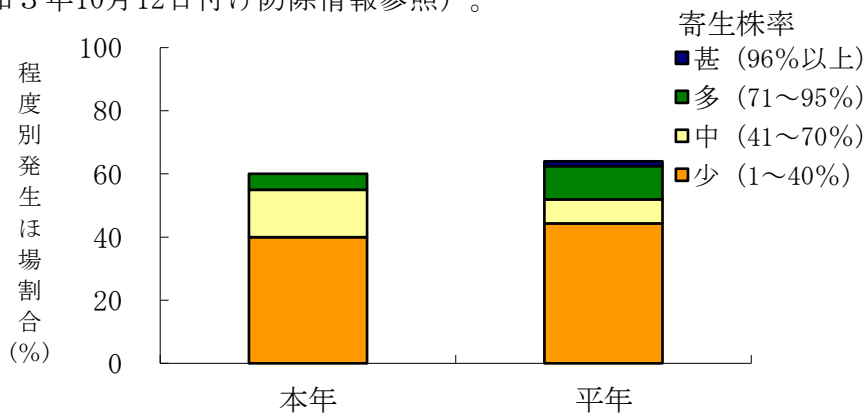


図4 ハダニ類の発生状況

5 コナジラミ類

発生ほ場割合は平年並でした（図5）。すす病の発生も確認しています。密度が高くなるとすす病発生の原因となるので、低密度時から防除を実施してください。

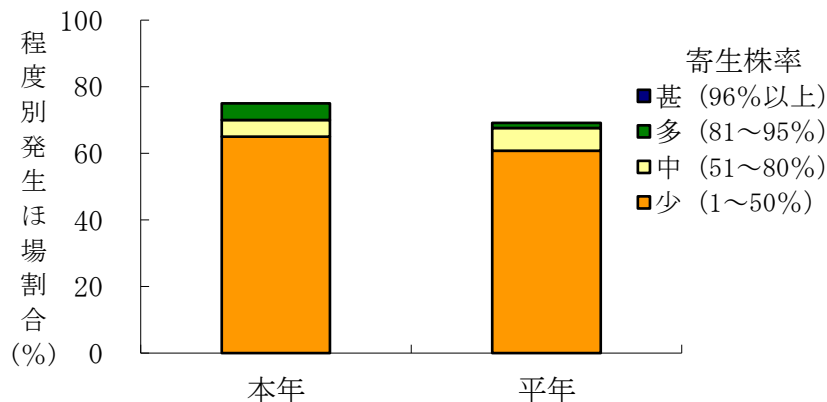


図5 コナジラミ類の発生状況

6 アザミウマ類

発生ほ場割合は平年並でした（図6）。寄生種はミカンキイロアザミウマとヒラズハナアザミウマでした。果実被害も確認されています。今後ハウス側面等の開閉で外部からの侵入が懸念されます。花をよく観察して、寄生がみられる場合は低密度時から防除を実施してください。

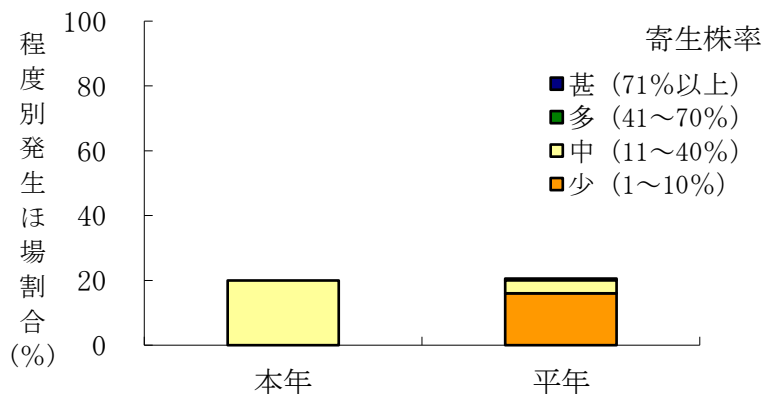


図6 アザミウマ類の発生状況

● 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所まで御連絡ください。